稿 KŌCHŪ 虫

カタモンハナノミの徳之島の記録

高桑　正敏

カタモンハナノミ *Mordellaria humelaris* NOMURA は1960年に奄美大島で採集された1♀に基づき記載されたが，その後この種の採集例を聞いたことがなかった。筆者は奄美諸島徳之島より持ち帰ったタブ類 *Machilus* の立枯れ材より本種を脱出させたので報告しておく。

1♂，徳之島犬田布岳（材採取：23—26. Ⅰ. 1972，脱出：横浜，28. Ⅴ. 1972）

上記の標本は，原記載と比較すると体が小さく（頭と尾節板を除いた長さが2.6mm），わずかに体は細く（上翅の幅は前胸の幅とほぼ等しい），触角はより長く（前胸の後角を明らかに越える），また北隆館の原色日本昆虫大図鑑Ⅱの図と比較すると中央後方の黄色微毛から成る帯ははるかに太く発達するなどいくつかの差が見られるが，これらは♂♀の差によるものとみなした。

蛇足ながら，上記個体が脱出した立枯れ材からは1972～1973両年に多数のヨツモンハナノミ *Variimorda ihai ihai* CHŪJŌ も脱出した。

（〒236 横浜市金沢区六浦町3577）

石垣島におけるカミキリ２種

矢野　立志

筆者は沖縄県石垣島にて，記録しておくべきと思われる下記２種のカミキリを採集しているので報告する。

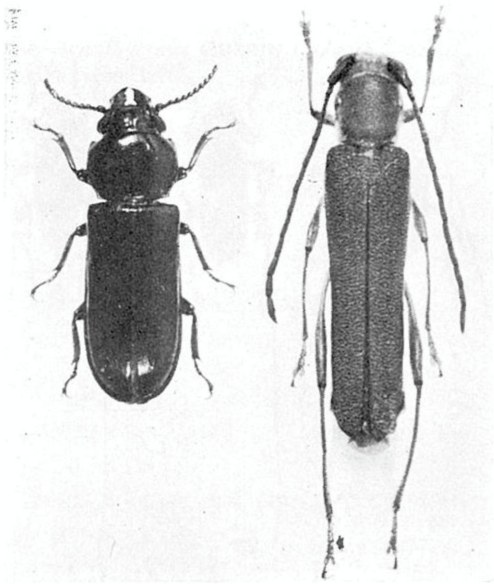
1.　タイワンニセククガタカミキリ

Parandra formosana MIWA et MITONO

1♀，石垣島オモト岳，29. Ⅶ. 1975

本種は日本では石垣・西表両島でそれぞれ１～数頭ずつの記録があるようだが，最近はまったく採集例を聞かなかった。上記の個体はオモト岳山中（中腹付近）で，モクタチバナ生木の枯死部にあった空洞中に落ちていた死骸で，内臓・腹部背板などはアリに食べられていた。（写真左）

なお，本個体と奄美大島（八津野）産のアマミニセクワガタカミキリ *P. shibatai* HAYASHI とを比較したが，頭部および前胸背の形がやや異なること，体が黒味を帯びること以外には特に差異はなく，小島・林(1969)*) で述べられている“上翅の２対の縦すじ”はタイワンニセクワガタばかりでなくアマミニセクワガタにも同様に見られた。



2.　ムモンチャイロホソバネカミキリ

Thranius rufescens (BATES)

1♀，石垣島オモト岳，20. Ⅶ. 1975

オモト岳中腹で，早朝（７時半頃）葉上に静止していたもの。本種の同島における記録は最近，蟹江昇氏により報告されている**)が，筆者も採集しているので記録しておく。（写真右）

*)　小島圭三・林匡夫（1969）：原色日本昆虫生態図鑑Ⅰ，カミキリ編，p.2，pl.1，fig.2，保育社

**)　蟹江昇（1976）：月刊むし61号，p.28

（〒734 広島市皆実町1-18-40）

御蔵島でキイロアラゲカミキリを採集

下村　　徹

キイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* (HAYASHI) は，1956年８月８日，三重県平倉演習林で採集された1♀を基に新属新種 *Hirakura rufoflava* HAYASHI として記載された[1]が，その後 *Hirakura* 属は MATSUSHITA (1933) の創設した *Penthides* 属とシノニムであることが判ったため，本種の学名は *P. rufoflavus* と変更された[2]。本種は原記載以降，奄美大島にて数頭，また最近はトカラ列島中之島でも2♀♀が得られている[4]が，個体数はきわめて少ないようで，他には採集例を聞かない。

筆者はこれまでに記録のなかった伊豆諸島御蔵島にて